

現代デンマーク語の親族名称

藪 下 紘 一

はじめに

筆者は1983年冬学期にウプサラ大学でデンマーク語Aのコースを受講した。週に3～4回の講義で二ヶ月位で終る。スウェーデン人学生(約30名)にとってはそれで良いのだろう。

本文中で人にたずねた風の所があるが、答えてくれたのはデンマーク人講師 Kjeld Kristensen である。つたないスウェーデン語を使つてのやりとりだったので不備の所、聞き違いもあるやもしれないが、それは総て筆者の責任である。講義の様子等については末尾に書く。

I. 「父方」の系統

「私」の「父」は fader だが、普通は -de- が脱落して far になっている。「父」の「兄弟」は onkel で、farbror でも良い。後者の方がノルド語本来の言い方で、onkel はドイツ語からの借用語。そして知つての通り、ドイツ語の Onkel はフランス語 oncle からの借用語で、これは更に lat. avunculus から来ている。「父」の「姉妹」は tante 又は faster (< glda. ((1100-1500)) fathærsystær) で、これも tante がドイツ語の Tante と同様フランス語の tante からの借用語であり、faster が本来のノルド語の言い方である。

そして「おじ(伯父と叔父)」の配偶者も tante と呼ばれ、「おば(伯母と叔母)」の配偶者も onkel と呼ばれる。これは日本語と同じである。書く順序が逆になったが farbro(de)r は知らない人や親戚でない人への呼びかけには使わない。

「父の父=祖父」は bedstefa(de)r (< オランダ語及び低地ドイツ語 bestevader), 又は farfar。「父の母=祖母」は bedstemo(de)r 又は mormo(de)r (由来は bedstefa(de)r に同じ)となり、「祖父母」は bedsteforældre である。

「曾祖父」は oldefar (< glda. aldæfathær だが、恐らく mnty. (中世低地独語) oldevader からの借用語だろう、「曾祖母」は oldemo(de)r (< glda. aldæmothær だが、恐らくは mnty. oldemöder からの借用語だろう)、「曾祖父母」は oldeforældre である。

それより前の世代については、「何とか王の御世の先祖」という言い方をするそうである。その

「先祖」は単数が *forfader* , 複数が *forfædre* である。尚「父方の誰々」という場合は *på fædrene side* という前置詞句を付加する。

次に「父の兄弟姉妹の子供」だが、男が *fætter* (< *glda. fædder* < *mnty. vedder* (派先語) < *fader*), 女が *kusine* (< *dt. < fr. cousin < lat. (con)sobrinus* ((厳密には母方のイトコをさす。))) である。そしてイトコの子供は *næstsøskendebørn* である。イトコの配偶者には特別の呼称はない。
first name で呼ぶのだろう。

Ⅱ. 「母方」の系統

「母方の誰それ」という場合は *på mødrene side* という前置詞句を付加する。

「母」は *moder* だが、中間の *-de-* を落した *mor* が普通である。「母の兄弟」は *onkel* 又は *morbror* で前者が普通。又「母の姉妹」は *tante* 又は *moster* であるが前者が普通。*morbror* と *moster* がデンマーク語本来の単語である。

「母の両親＝祖父母」は *bedsteforældre* で、「祖父」は *bedstefar* 又は *morfa(de)r* , 「祖母」は *bedstemor* 或は *mormo(de)r* である。それより以前の世代(曾祖父母)は父方の場合と同じなので略す。

さて「母の兄弟の配偶者」は *tante* , 「母の姉妹の配偶者」は *onkel* で父方系統の場合と同じである。「母方のイトコ」についても父方と同じで、男の子は *fætter* , 女の子は *kusine* となり、「イトコの子供」も *næstsøskendebørn* となり父方の場合と同じである。

Ⅲ. 「私」と私以後の世代

「私 (*jeg*) の両親」は *forældre* である。兄弟は *bro(de)r*. 姉妹は *søster* 。 *bror* の配偶者は *svigerinde* だが *broderkone* とも呼ばれる。*søster* の配偶者は *svoger* である。兄弟・姉妹を総称して *søskende* (pl.) という単語がある。これは *glda. syskin(i)* から来ている。そして *søster* に由来する。どうやらゲルマン語派では、日本語の「兄弟」が「兄弟・姉妹」を総称するのと違って、「姉妹」に由来する単語が「兄弟・姉妹」をあらわすらしい。この事はアイスランド語、ノルウェー語、スウェーデン語でも、そしてドイツ語でもそうである。調べがついていないのはゴート語、オランダ語、そしてフリジア語の場合である。

兄弟・姉妹の子供は男が *nevø* (< *fr. neveu < lat. nepōs*), 女が *niece* だが、兄弟の男の子は *brorsøn* , 女の子が *brordatter* , 又姉妹の男の子が *søstersøn* , 女の子が *søsterdatter* も用いられる。

結婚するに当っては「私」は *brudgom* , 相手は *brud* である。この二つの単語でも *brud* が基本にあり、花ムコはそれに *-gom* がくっついている。女性の方が強い様である。

さて一家を構えて「私」は夫(mand)となり、つれ合いは妻(kone 又は hustru)となる。kone の方が日常語では hustru よりは普通だそうだ。

妻の兄弟・姉妹だが、これは男が svoger (< ty. Schwieger.), 女が svigerinde と呼ばれる。ここでは男性形が基本で、それに女性をあらわす -inde が付加されている。又「妻の両親」は svigerforældre で、分けて言う場合は svigerfar と svigermor となる。

私の「子供(børn)」は男は søn , 女は datter である。息子の妻は svigerdatter (方言では sønnekone もある) この「義理の娘＝嫁」の兄弟・姉妹には特別な呼称はないそうで、first name で呼ぶのだろうか。娘の配偶者は svigersøn である。

さて息子・娘に子供ができる。børnebørn (孫) である。これを区別したい場合は sønnesøn, sønne-datter と dattersøn, datterdatter となる。日本語でのように「内孫・外孫」という区別の仕方は、アイスランド語と同様ないようである。

「孫」が結婚する曾孫が生れる。これは børnebørns børn 又は oldebørn で、後者の方が普通だそう。曾孫が男の場合 sønnesøns søn という呼び方がある。とすれば sønnesøns datter も可能だろう。「孫の嫁」には特別な名はついていない。これも first name で済ますのだろうか。

曾孫が結婚する。配偶者には特別な名はない。「夜叉孫」はききもらしたが、børnebørnebørns børn とでもなるのだろうか。

日本語では夜叉孫の次そしてその次と名前がある様だが、これらは略す。

おわりに

さて講義の事だが、既存のテキストを使わず、stencil (タイトルは Dansk for svenskere) を用いた。これは近々本になるはずである。

音声学的なもの(発音器管・母音と子音, stød の話, イントネーション, 音素分析, 文字と発音, 方言等) から入って行った。

又 DANMARK i dag というコピーも配られた。次に Om den dansk-svenske hørførståelsens betingelser というコピーをもらった。二冊目の stencil (Formlære, Syntaks, Ordforråd, Språghistorie) が配布され、更に MODERNE DANSK LITTERATUR というコピーをもらった。これら全部で約400ページあり、筆者にはとても読み切れなかった。不思議に思ったのは講師はデンマーク語で話をし、学生達は終始スウェーデン語を使っていることであった。講師に「学生がデンマーク語を話すことを望まないのか」と質問してみると「Nej! 元々方言みたいなものだから、デンマーク語がわかればいいのだ」という返事であった。

各れにしても貴重でシンドイ体験をしたものである。

参考文献

Langenscheidts Taschenwörterbuch, Dän. -Dt., Dt. -Dän.

Dansk-svensk ordbok, Sthm 1980

V. Palmgren, M. Petersen og E. Hartmann, Svensk-dansk ordbok, Kbhn 1981³

Niels Åge Nielsen, Dansk etymologisk ordbok, Kbhn, 1969²